

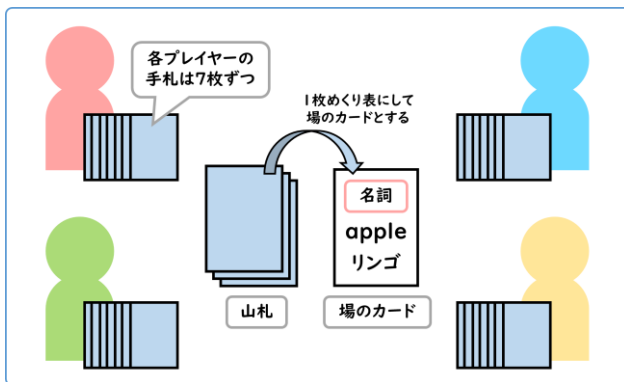
ABCアッセンブル【ABC Assemble】

ゲームのルール

Assemble(アッセンブル)は
組み立てる・集まるという意味!

・ゲームのはじめかた(準備・セットアップ)

- (1) 最初に親(スタートプレイヤー)を決めて、各プレイヤーに7枚ずつカードを配り、手札とします。手札は他のプレイヤーには見せません。
- (2) 残ったカードを重ねて、山札にします。
- (3) 山札からカードを1枚めくり表にして、場のカードとします。
めくったカードが**前置詞カード・SP(スペシャル)カード**だったら、カードを山札の1番下に戻して、次のカードを表にします。
- (4) 親から順番に、各プレイヤーが時計回りにカードを出していきます。
カードの出し方は、裏面にある【初級編】のルールを参照してください。



・ゲームのあがりかた

手札をすべて出したプレイヤーから勝利となります。

3人以上でプレイしているときは
最後の1人になるまで続けよう!

・手札が最後の1枚になったら

手札が最後の1枚になったら『アッセンブル!』と宣言しましょう! 宣言し忘れて、他のプレイヤーに指摘されてしまったら、山札からカードを2枚引かなければなりません。

カードの種類 (ゲーム用カード54枚+サマリーカード4枚)

品詞カード(50枚)



名詞(8枚)

人・物事など



動詞(5枚)

動作・作用など



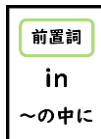
形容詞(5枚)

様子・状態など



副詞(5枚)

程度・頻度など



前置詞(2枚)

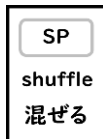
場所・時間など



ダブル品詞(23枚)

詳細はP4を参照

その他のカード (4枚)



スペシャル(4枚)

特殊なカード

基本を把握するための導入ルールです。基本が分かったら【中級編・上級編】にチャレンジ！【初級編】では**前置詞カード(緑色)**は使わないので、抜いておきましょう。ダブル品詞カードの**前置詞側**も使いません。もう片方側の品詞として扱います。

・カードの出し方

カードは自分の手番に手札から1枚ずつ場に出します。
カードは、次の3通りの方法で出すことができます。

カードを出すときに
発音と意味を言ってみよう！

(1) 品詞で出す

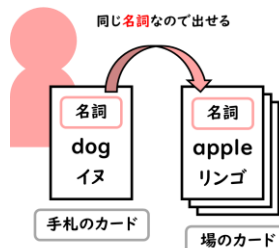
場のカードと同じ品詞(同じ色)のカードを出せます。
場に出せる品詞カードは、以下の4種類になります。

名詞カード(赤色)：人・物事などを表す言葉

動詞カード(青色)：動作・作用などを表す言葉

形容詞カード(紫色)：様子・状態などを表す言葉

副詞カード(黄色)：程度・頻度などを表す言葉



(2) スペルで出す

出すときにどのスペルが
同じなのか言いましょう

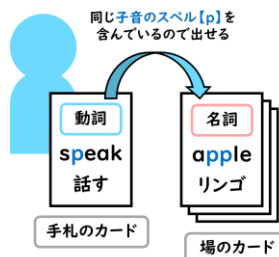
子音=母音以外

品詞が違ってても、場のカードと同じスペル(子音)を含むカードを1枚出せます。このとき、場のカードは出されたカードの品詞に変わります。

(右図の場合、場のカードは『動詞』になります。)

1人目のプレイヤーがあがったら、**同じ母音(a, i, u, e, o)**を含むカードも出せるようになります。

※2人でプレイしている場合は、子音・母音どちらを含む場合でも出せます。



(3) SP(スペシャル)カードを出す

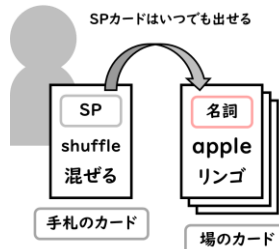
SP(スペシャル)カードは、場のカードの品詞・スペルに関係なくいつでも出せます。ただし、最後にSPカードを出してあがることはできません。

SPカードを出したら、SPカードの効果を処理します。

効果はそれぞれのカードを参照してください。

場のカードはその前の品詞のまま変わりません。スペルはSPカードを参照します。

(右図の場合、品詞は『名詞』、スペルは『shuffle』になります。)



・カードを出せないときは？

手札に出せるカードがないときは、山札からカードを1枚引きます。引いたカードを出せるときは、そのまま出すことができます。出せなかった場合はパスとなり、手番が終了します。

修飾とは言葉に意味を付け加えたり
詳しくしたりすること!

・修飾の使い方

一部の品詞カードは、他の品詞カードと合わせて【ブロック】を作ることができ、これを**修飾**と言います。【ブロック】は『品詞で出す』ときに使います。『スペルで出す』ときには使えません。場に出すときは、以下の表を参照に左から順番に出してください。

★【ブロック】で出したときは、場のカードは【ブロック】と同じ品詞になり、スペルは後に出されたカードのものを参照します。

形容詞による修飾

① 形容詞 + 名詞 = 名詞ブロック

形容詞は名詞を**修飾して**【①名詞ブロック】を作ります。

★右図では、場のカードの品詞は『名詞』、スペルは『spider』になります。

副詞による修飾

② 動詞 + 副詞 = 動詞ブロック

③ 副詞 + 形容詞 = 形容詞ブロック

④ 副詞 + 副詞 = 副詞ブロック

副詞は動詞・形容詞・副詞を**修飾して**【②動詞ブロック】【③形容詞ブロック】【④副詞ブロック】を作ります。

★右図では、場のカードの品詞は『動詞』、スペルは『fast』になります。

・前置詞の使い方

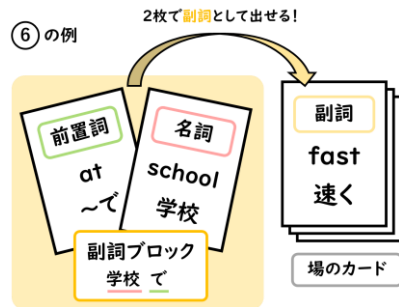
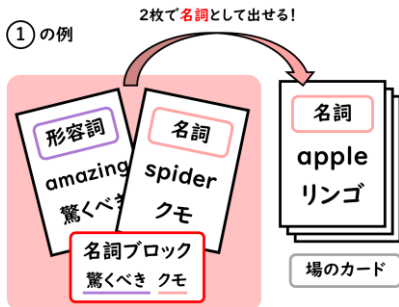
前置詞カードは1枚だけで出すことができません。名詞カードと合わせて【ブロック】を作って出します。(注意：前置詞で作った【ブロック】は**修飾を受けられません**。)

⑤ 前置詞 + 名詞 = 形容詞ブロック

⑥ 前置詞 + 名詞 = 副詞ブロック

前置詞は名詞と合わせて【⑤形容詞ブロック】【⑥副詞ブロック】を作ります。

★右図では、場のカードの品詞は『副詞』、スペルは『school』になります。



修飾入門ルール【中級編】

【初級編】に以下のルールを追加します。

ここからが本番！
修飾を使いこなせ！

(1) 修飾を使おう

修飾を使って【ブロック】を作り1度に2枚までのカードを組み合わせさせて出せます。組み合わせ方は、裏面の『修飾のルール』を確認しましょう。

前置詞カードはスペルで
出すこともできません

(2) 前置詞を使おう

前置詞カードを使うので、入れておきましょう。前置詞カードは1枚だけでは出せません。裏面の『前置詞の使い方』を参考に『前置詞＋名詞』で出しましょう。

(3) カードを出せるときでも…

自分の手番で手札のカードを出せるときでも、山札からカードを1枚引くことができます。修飾を使ったコンボを狙いましょう！

修飾マスタールール【上級編】

【初級編・中級編】に以下のルールを追加します。

修飾の使い方をマスターして
目指せ！5枚出しコンボ！

【ブロック】で修飾

【ブロック】(裏面参照)を使って品詞カードや【ブロック】を修飾できるようになります。1度に最大5枚までのカードを組み合わせさせて出せます！ただし、1度に出せる同じ品詞カードは2枚までとなります。

複数の修飾を組み合わせると1度に出せるカードを増やせますが、カードを出す順番は少し複雑になってしまいます。

詳しい修飾の仕方・順番はホームページにまとめてあります。

詳しいルールはこちら



ダブル品詞カード

色々な組み合わせがあります
使いこなすと便利なカード

ダブル品詞カード(2色のカード)は2種類の品詞として使うことができるカードです。

例えば、『動詞・名詞』のカードであれば、場のカードが『動詞』のときも『名詞』のときも出すことができます。

他の品詞カードと同じように修飾などに使うことで【ブロック】を作ることもできます。

ダブル品詞カードを『スペルで出した』ときの場のカードは、カードを出したプレイヤーがどちらかの品詞を選んで決められます。

ゲーム開始のときにめくったカードがダブル品詞カードだった場合は、最初のプレイヤーがどちらかの品詞を選んで決められます。(注意：前置詞は場のカードとして選べません。)

